

韓国鉄鋼業のキャッチアップ過程：日本のイノベーションとの関わりを中心に

安倍，誠

<https://doi.org/10.15017/4059979>

出版情報：Kyushu University, 2019, 博士（経済学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：



氏 名	安倍 誠			
論 文 名	韓国鉄鋼業のキャッチアップ過程－日本のイノベーションとの関わりを中心に－			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	深川 博史
	副 査	九州大学	教授	清水 一史
	副 査	九州大学	准教授	堀井 伸浩

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、戦後世界の鉄鋼業を日本が生産面でも技術面でも主導するなか、なぜ、韓国の鉄鋼業が後発国のなかで、いち早くキャッチアップすることができたのか、日本のイノベーションとの関わりを中心に考察を行っている。考察の結果として、韓国の鉄鋼業が、日本の鉄鋼業が生んだ大型臨海一貫製鉄所の建設という工程イノベーションと、高級鋼の開発・生産という製品イノベーションがそれぞれ収束していった段階に学習を一段と進めて技術能力を高めた結果、キャッチアップを加速させたことを、明らかにしている。

本論文の意義として、以下の点を挙げることができる。第 1 に、戦後日本の鉄鋼業において、最初に大型臨海一貫製鉄所の建設という工程イノベーションが生じたが、このイノベーションが収束した 1980 年代に、韓国の鉄鋼業は低コスト・高効率の生産体制を築くことに学習を集中し、少品種大量生産体制を構築することによって、生産面で日本にキャッチアップしたことを明らかにした点である。第 2 に、戦後日本の鉄鋼業においては、工程イノベーションに続いて高級鋼の開発・生産という製品イノベーションが生じたが、このイノベーションが収束に向かった 1990 年代末以降、韓国の鉄鋼業 2 社が競ってそれぞれの方法で学習を進め、高級鋼の開発・生産が進展し、付加価値の高い製品についても日本へキャッチアップしたことを明らかにした点である。こうして本論文は、韓国鉄鋼業のキャッチアップに関する研究に新しい知見をもたらしているものと評価できる。

本論文で考察した時期以降の韓国鉄鋼業のイノベーション等の一層の解明が望まれるが、これらの点は本論文の価値を損なうものではなく、今後鋭意追求すべき課題に属する。以上の理由により、本論文調査会は、安倍誠氏より提出された論文「韓国鉄鋼業のキャッチアップ過程－日本のイノベーションとの関わりを中心に－」を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。